

## 地域未来創生塾@中央公民館（全5回）

日比野 愛 子<sup>1</sup>

### 1. は じ め に

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターは、弘前市立中央公民館と連携して「地域未来創生塾@中央公民館」を開催した。「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全5回の講座が開かれた。本事業は、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策などを模索するために、地域住民の皆さんと弘前大学人文社会科学部の教員及び学生が学び合う場を作ることを目的として実施した。

本年度は、昨年に引き続き、リモートと対面型を並行したハイブリット形式で行った。

以下は各講座の要約である。

### 2. 各 講 座 の 要 約

#### ○第1回「歴史的に見た弘前と対馬のつながり」

2023年10月11日（水） 人文社会科学部 助教・古川 祐貴

弘前市の禅林街をまっすぐに抜けると長勝寺に突き当たる。津軽家の菩提寺として知られるお寺だが、ここに見慣れぬ名前のお墓が一基ある。対馬藩士・柳川調興のものである。お殿様の家柄でも、弘前藩士でもない人物のお墓がなぜここにあるのか。一本講座では江戸時代初期の日朝関係に目を向け、調興が遠い弘前の地で眠っている理由について明らかにした。

調興は近世日朝関係史上の最大のスキャンダルとでも言うべき「柳川一件」の結果、罪人として弘前に流されてきた。「柳川一件」とは対馬藩内で秘密裏に行われていた朝鮮国王宛て徳川将軍国書の偽造・改竄が江戸幕府によって露顕した事件である。朝鮮との外交問題に発展する可能性があったことから、時の将軍・徳川家光が直々に裁判を行ったことで知られる。調興は全ての罪を一身に背負い、33歳にして弘前の地を踏んだのである。

生活を続ける中で赦免の機会もあったが、対馬藩の猛反発によって赦されず仕舞い。弘前での生活は50年にも及んだ。調興にとって幸運だったのは弘前藩が罪人としてではなく賓客として扱ってくれたこと。特に津軽信政（4代藩主）に気に入られ、死後長勝寺に葬られることとなった。弘前と対馬は意外なところでつながっていたのである。

#### ○第2回「農家の経験値から学ぶ―短角牛の「よい母ウシ」とは？―」

2023年10月25日（水） 人文社会科学部 助教・泉 直亮

##### 【要約】

岩手県の北上山地では、日本短角種（以下、短角牛）というマイナーな和牛品種が飼養されている。この講義では、短角牛の品種改良方針に関して行政と農家（繁殖農家）とのあいだに見解の相違があること

<sup>1</sup> 弘前大学人文社会科学部

を示し、そうした齟齬がひき起こされた経緯について明らかにした。

品種改良を推進するための品評会である「和牛能力共進会」について、短角牛の審査基準は、多数派の黒毛和種の基準に準拠しており、短角牛に独自の生物学的特徴や飼養方式を十分に考慮していない。そのために現地の農家の多くは、この品評会に懐疑的であり、上位に入賞する牛を高くは評価していなかった。一方で、農家は「よい繁殖メス牛」について独自の評価基準をもっていた。その核心をなすのは「乳がよいこと」―乳量が多いこと、乳房や乳頭の形態が放牧と哺乳に適していることである。このような評価は、山間部で長期間放牧され、子牛が母牛のミルクに依存するという飼養方式と密接に関係している。そして、こうした農家の経験的な判断は市場での高収入につながっていた。

本講義では、このような問題が、この地域が「僻遠の地」として周辺化されてきたという社会的な諸条件と深く関連していることを論じた。

### 第3回「人口と経済の関係：人口減と人口流出どちらがより問題か？」

2023年11月8日（水） 人文社会科学部 助教・安中 進

本講義は、まず、人口と経済には一筋縄ではいかない関係があると指摘し、そうした関係の中で現在の人口減少への対応策を過去の研究の蓄積から得ようとした。

人口と経済の関係は、一般に考えられているように、単純に人口が増えれば良いわけではない。マルサスが指摘したように、過去の人類の歴史においては、人口の大きさと豊かさは反比例する場合も多かったと考えられるからである。人口の大きさが豊かさにつながるには、人口とともに経済が成長する必要があるのだ。

出生率低下の原因を探る研究の蓄積は多くあるが、出生率低下は婚姻数の減少に起因しているという研究が有力である。こうした関係を確認しつつ、青森が置かれている歴史的状況を概観すると、戦後の青森は、多くの人口関連指標において秋田などの近県よりも相対的にマシな状況にあったが、近年は必ずしもそうとはいえず、むしろ、男性未婚率の上昇率に限っていえば、全国最低となっている。

さらには、青森を含む東北地方は人口流出も激しく、人口減少の圧力となる出生率低下と人口流出という複合的な問題に対策をとる必要があるとまとめられる。

### 第4回「りんご新品種の食味評価および今後の普及方法について」

2023年11月22日（水） 人文社会科学部 教授・黄 孝春

この講義では、まずアメリカのミネソタ大学で育成した新品種 Minneiska（商標名 Sweetango）にクラブ制という新しい生産販売方式が導入される背景、プロセスなどについて説明したうえで、育成者権の強化に伴い、今後新品種のリリースに際して従来とは異なるビジネスモデルの適用が避けられないことを強調した。新品種の知財を活用したクラブ制が品種のブランド化、品質と価格の安定化そしてりんごの消費拡大や品種育成のための研究資金の獲得に寄与しているといわれているが、公的な資金によって育成された新品種のクラブ制適用にどのようなプロセスが必要かをめぐって来場者と意見を交わした。

いま民間も含めて数多くの新品種が育成され、さらに海外からも日本に品種登録申請する新品種が増加し、これまでそれらを総合的に評価することが行われていない。講義の後半では県内にある国内外の新品種を来場者に試食のうえ、その外観や食味についてアンケート調査票に記入し、総合的評価を行っていた。今後この試食評価の結果を取りまとめ、県内関係者に公表する予定である。

### 第5回「『小説』って何だろう～太宰治を読む～」 2023年12月13日（水）

人文社会科学部 助教・片岡 美有季

太宰治の作家生活はわずか16年間にもかかわらず、かつては「青春のはしか」と呼ばれ、そして死後80年近く経つ現在でも多くの読者を獲得し続けている。太宰の小説は今なお多くの読者を魅了し続けて

いるといってよい。しかし、そもそも「小説」とは何なのだろうか。本講義では、日本近代文学が自明視してきた「小説」とは何かを問う「千代女」（1941年6月、『改造』）を採り上げて講義を行った。


小説「千代女」の背景には、当時流行した鈴木三重吉主宰の雑誌『赤い鳥』における「綴方」および「綴方教育」がある。主人公・和子は女学校時代に「綴方」で「有名な先生」からの大絶賛を受け、卒業後は「小説家」を目指そうとするも、結局のところ「小説」を書くことはできない。それは「先生の教へ」をよく守ることを「誠実」と評するような「綴方教育」—女性の文章を評価するシステムや基準に馴致されてきたこと—の弊害といえるだろう。「作家」は男性の職業で、女性は「女流作家」と呼ばれて二流の存在として見なされてきた。本講義ではテキスト分析を行うことを通じて、これまで「出鱈目な綴方教育」をする先生として看過されてきた「沢田先生」が和子に唯一「小説」の書き方を教えてくれる存在であったことを検討した。



### 3 おわりに

今年度の講座では、日本近世史にはじまり、生態人類学・地域研究、日本経済史、経営学・農業経済、日本近現代文学など、さまざまな分野の目線から、この地域の課題だけでなく、地域の潜在力や地域資源の可能性などを再発見する貴重な場となった。このように地域の現状を多角的な目線で理解し、地域住民の皆さんと共有することは、今後の地域づくりのために大変重要な取り組みとなりうる。このような事業を継続することを通して、より多くの市民や学生が地域の実情を再認識できる場を拡げていきたい。





おもい  
想いの  
未来を  
描こう

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・弘前市立中央公民館  
弘前大学との地域づくり連携事業

# 地域未来創生塾 @中央公民館

参加  
無料


お申込み不要

日程: 令和5年10月11日(水)から令和5年12月13日(水)の期間の  
原則第2および第4水曜日(全5回)

時間: 18:30~20:00 対象: 弘前市および近隣にお住まいの高校生・一般の方

場所: 弘前文化センター 第6会議室(弘前市下白銀町19-4)およびWeb開催

※会場での参加の際はマスクの着用をお願いします。また、当日体調の優れない方は、ご無理をされないようにお願いします。

 zoom [ミーティングID] 629 223 5980 [パスワード] 393198

QRコード  
での参加は  
こちら▶



※全5回のうち4回以上ご参加の方には修了証を授与します。最新情報については、チラシ配布および地域未来創生センターホームページに掲載します。  
主催: 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 共催: 弘前市教育委員会(中央公民館) 後援: 弘前市・東奥日報社・陸奥新報社

お問合せ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター ☎0172-39-3198

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <https://human.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>



# 「地域未来創生塾@中央公民館」

## 目 的

「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全5回の講座を開催いたします。具体的には、人口減少とともに様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策・地域の防災・減災などを模索するために、地域のみなさまと弘前大学人文社会科学部の教員が、講義形式で学びを深めます。関心のあるテーマのみのご参加も大歓迎です。



## 年間計画

### 第1回 10月11日(水)

#### 歴史的に見た弘前と 対馬のつながり

講師：人文社会科学部助教 古川 祐貴(専門：日本近世史)

内容：弘前藩主菩提寺の長勝寺に対馬藩士の墓があります。直線距離で1,000キロを隔てた対馬藩士の墓が何故弘前にあるのか。そしてそれは何故藩主菩提寺に作られたのか。その謎に迫る中で、弘前と対馬とのつながりを明らかにします。

### 第2回 10月25日(水)

#### 農家の経験値から学ぶ -短角牛の「よい母ウシ」 とは？-

講師：人文社会科学部助教 泉 直亮(専門：生態人類学、地域研究)

内容：岩手県や青森県では短角牛という珍しい和牛が飼われています。北上山地でのフィールドワークから、短角牛農家は「よい母ウシ」について品種改良政策とはちがう独自の基準をもっていることが分かりました。ここでは、こうしたちがいに注目して、地域の現場に目を向ける大切さについて考えます。

### 第3回 11月 8日(水)

#### 人口と経済の関係： 人口減と人口流出 どちらがより問題か？

講師：人文社会科学部助教 安中 進(専門：日本経済史)

内容：人口増加は、経済成長にとってプラスにもマイナスにもなり得ると指摘されてきました。しかし、地方において、人口減少は経済にとってマイナスだとは思われていません。なぜでしょうか。また、仮に出生数が増えても、生まれた人々がそのまま首都圏などの都市部に流出しては、地方にとってプラスにはなりません。どうしたら良いのでしょうか。本講義では、このような地方が抱える複雑な人口問題を考えます。

### 第4回 11月22日(水)

#### りんご新品種の食味 評価および今後の普及 方法について

講師：人文社会科学部教授 黄 孝春(専門：経営学、農業経済)

内容：国内外のりんご新品種の評価を行い、農産物知財マネジメントの視点から新品種の生産流通における新しい仕組みを解説します。

### 第5回 12月13日(水)

#### 「小説」って何だろう ～太宰治を読む～

講師：人文社会科学部助教 片岡 美有季(専門：日本近現代文学)

内容：太宰治はかつて「青春のはしか」とも呼ばれ、今も多くの若者に読まれています。しかし、そもそも「小説」とは何なのでしょう。太宰は「千代女」(1941年)という作品の中でそれを問うています。日本近代文学が自明のものとしてきた「小説」とは何か。「千代女」を読み解くことを通して、それを考えたいと思います。



お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172-39-3198

E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <https://human.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>